



## 組立て方法①

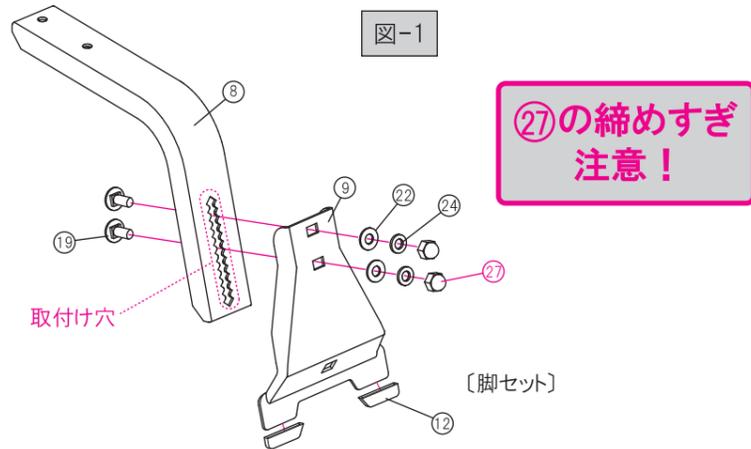
- △注意 \*キャリアの組立て時はケガ防止のため、滑り止め付軍手を使用してください。  
\*キャリアの組立て時にラチェットレンチを使用の場合は締め過ぎによりボルトやナットの破損の恐れがある為、締め過ぎには十分に注意して締付けてください。指示のない締付けの目安はバネ座金の口が閉じてから90度程度回るぐらいです。

1. 「脚セット」を組立てます。車のルーフの高さに合わせて⑧脚ステーと⑨インナークランプの取付穴の位置を決めます。雨ドイは前・中央・後で山なりになっている場合があります。中央を前後より低くすると荷受け部がフラットに近づきます。

- ・⑧脚ステー取付穴の下の方に取付けた場合はキャリアの高さが高くなります。  
・⑧脚ステー取付穴の上の方に取付けた場合はキャリアの高さが低くなります。  
※6mmの間隔で高さ調整が可能です。

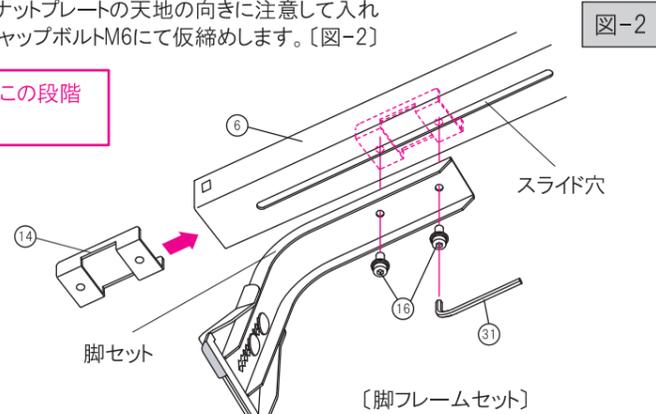
取付穴の位置が決まったら⑧脚ステー取付穴の裏側から⑯角根ボルトM6を通し⑨インナークランプを、⑳平座金M6、㉑バネ座金M6、㉒袋ナットM6にてしっかりと締付けます。その後、㉓インナー保護キャップを⑨インナークランプの下端に差し込みます。〔図-1〕

- △注意 締め過ぎにより⑯角根ボルトM6は破損する恐れがあるため、締付けには十分に注意してください。  
締付けの目安はスパナで ㉑バネ座金の口が閉じてから㉒袋ナットM6が90度程度回るぐらいにしてください。  
〔参考締付トルク 5.0N・m(0.5kgf・m)〕

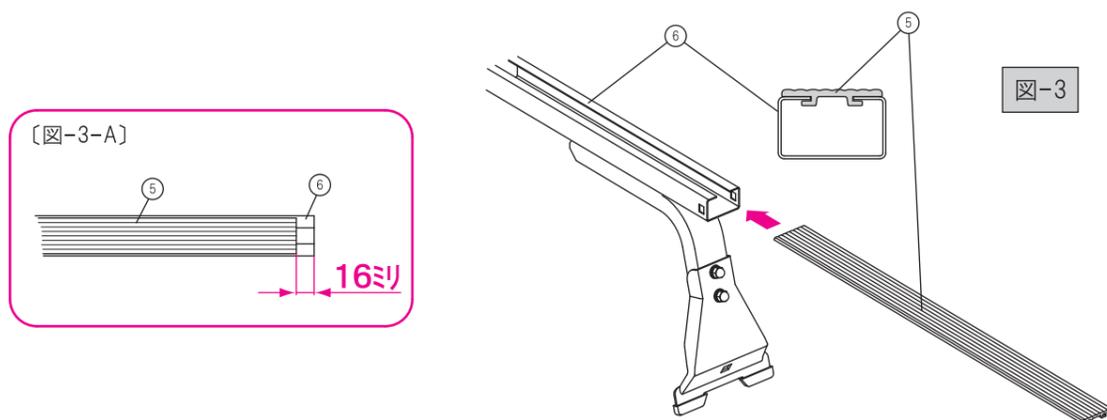


2. 「脚フレームセット」を組立てます。⑥フレームチャンネルの中に⑭ナットプレートの天地の向きに注意して入れ「脚セット」を⑥フレームチャンネル下のスライド穴にあてがい、⑯キャップボルトM6にて仮締めします。〔図-2〕

- △注意 車両に取付ける際にキャリア幅の調整を行うため、必ずこの段階ではスライドする程度の仮締め状態にしてください。

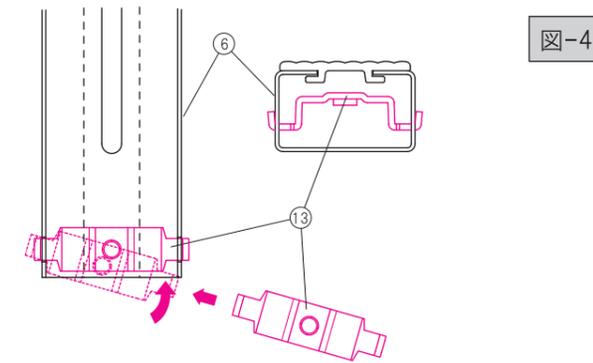


3. ⑥フレームチャンネルに⑤ラバーを通します。〔図-3〕  
⑤ラバーを通す際は⑥フレームチャンネルの端から「16ミリ」空けた状態にしておいてください。〔図-3-A〕



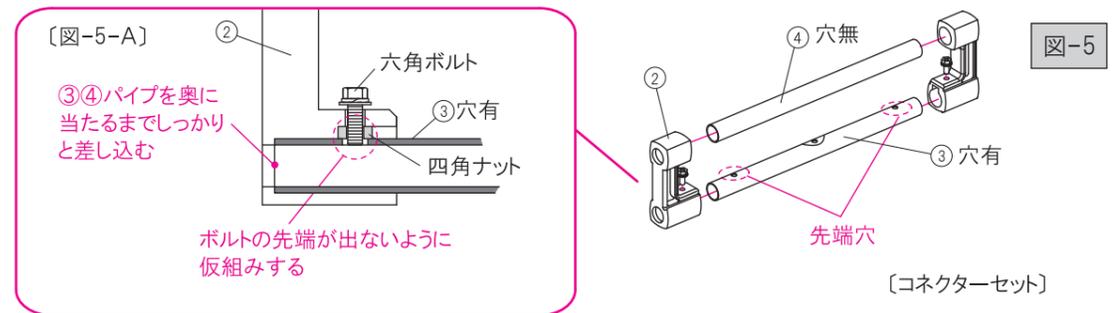
## 組立て方法②

4. 「脚フレームセット」の⑥フレームチャンネルの両端に⑬フレームチャンネル金具を入れておきます。入れる際は⑥フレームチャンネルの角穴の内側から⑬フレームチャンネル金具を斜めに入れ反対側の角穴に引っ掛けます〔図-4〕



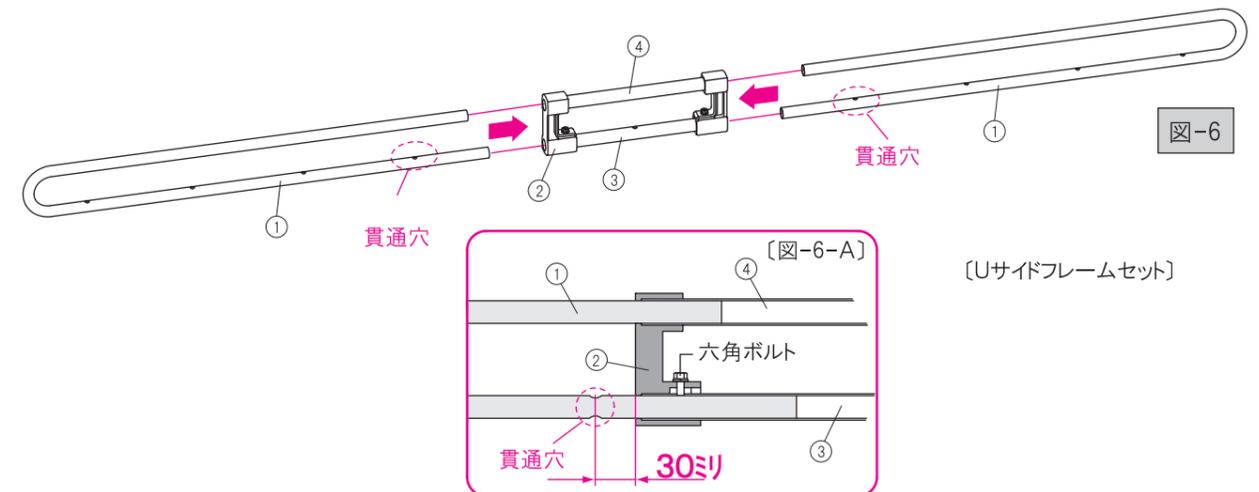
5. 「コネクターセット」を組立てます。②コネクターに組付けてある六角ボルトを一度ゆるめます。②コネクターの上の差込口に④パイプ(穴無)を差込み、下の差込口には③パイプ(穴有)のパイプの先端穴が上になるように差込み、手で軽く六角ボルトで仮止めします。

- △注意 この時、③④パイプは②コネクターの奥に当たるまでしっかりと差込みます。そして六角ボルトの先端が③パイプ(穴有)の先端穴から絶対に出ないようにしてください。〔図-5-A〕  
ボルトの先端が飛び出した状態で仮止めすると次の工程〔組立て方法6〕で①U型サイドフレームの先端が六角ボルトに当たり奥まで入らないので先端を飛び出さないでください。



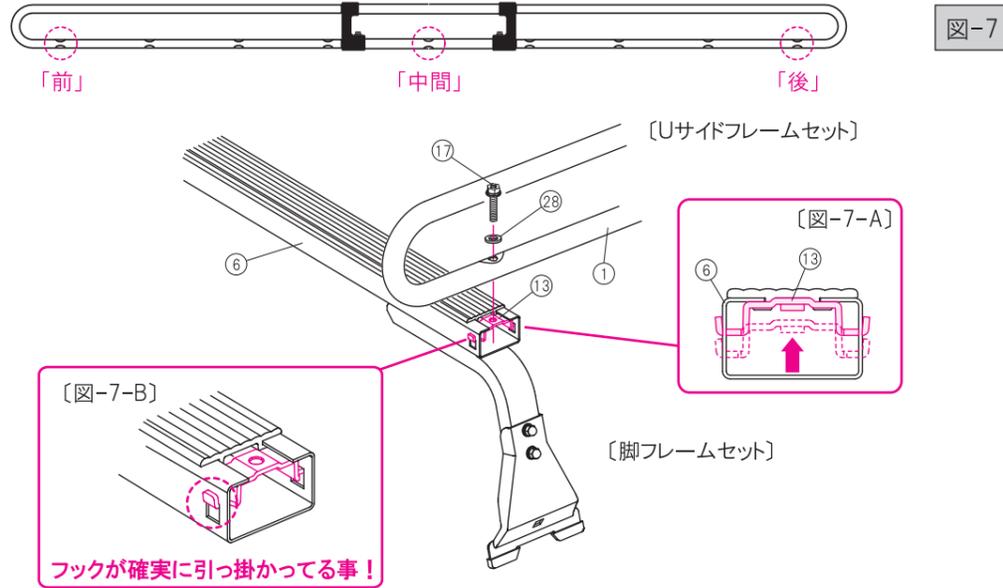
6. 「Uサイドフレームセット」を組立てます。「コネクターセット」の反対側の差込口から①U型サイドフレームを差込み、六角ボルトにて締付けます。①U型サイドフレームを差込む際は貫通穴がある方が下になります。〔図-6〕

- △注意 この時、①U型サイドフレームは③④パイプの中に入る仕組みとなります。そして、差し込む際は硬くて入り難い場合がありますが、気をつけて強く押し込んでください。差込みの目安は①U型サイドフレームの最初の貫通穴が②コネクターの手前30ミリぐらいになるように合わせてください。〔図-6-A〕



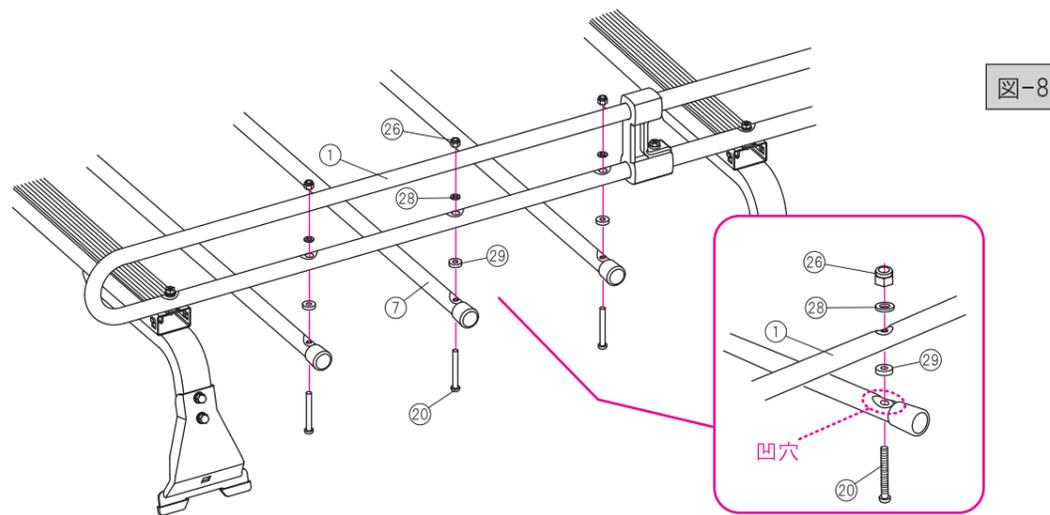
## 組立て方法③

7. 「Uサイドフレームセット」の「前」・「中間」・「後」に「脚フレームセット」を組付けます。〔図-7〕  
 ⑥フレームチャンネル両端上面の16ミリ空いている所に①U型サイドフレームを載せ、⑲ナイロンワッシャー、⑲六角ボルトセットM6にてしっかりと締付けます。締付けの際は⑬フレームチャンネル金具を指で上に上げた状態で締付けを行ってください。〔図-7-A〕  
 この時、⑬フレームチャンネル金具の両端のL型フックが⑥フレームチャンネルの角穴に確実に引っ掛かった状態である事を確認してください。〔図-7-B〕

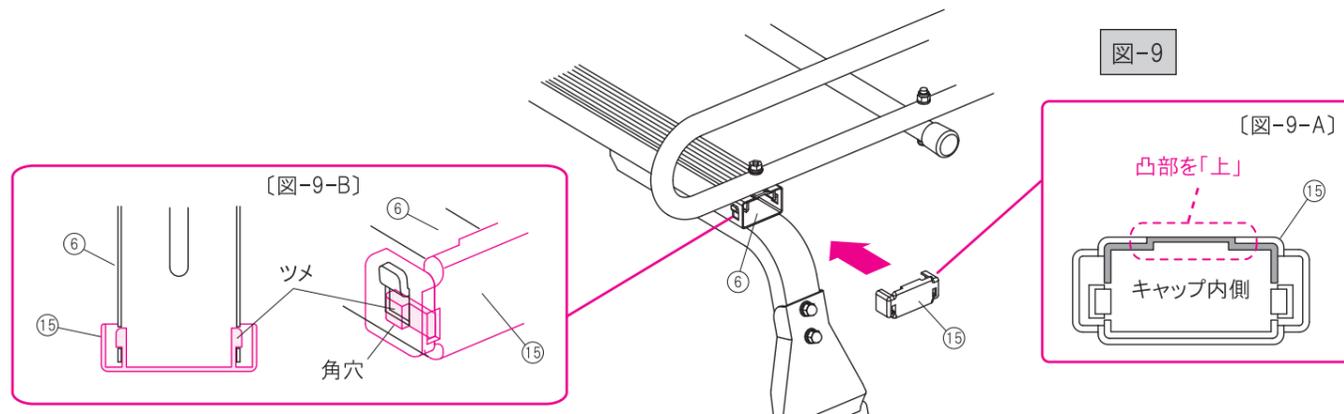


8. ⑦キャップ付パイプの凹穴が上になるよう向きに注意して下から⑳丸ネジM6を通し、㉑ゴムパッキンをはめ①U型サイドフレームをまたいで㉒ナイロンワッシャー、㉒ナイロンナットM6にて①U型サイドフレームにしっかりと取付けます。〔図-8〕

△注意 ⑦キャップ付パイプは必ず①U型サイドフレームの「下」に取付けてください。「上」で固定されますとサビ発生の原因になります。



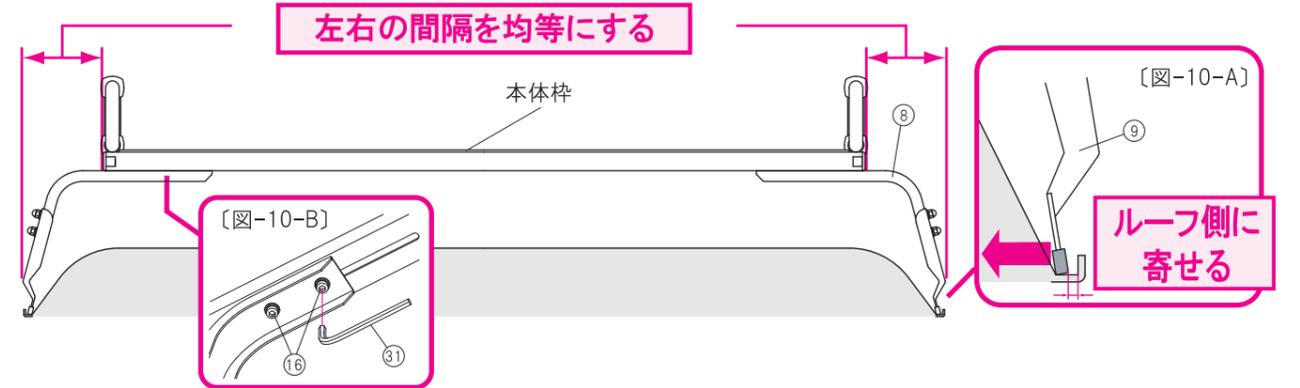
9. ⑥フレームチャンネルの先端に⑮フレームキャップを組付けます。〔図-9〕 この時、⑮フレームキャップの凸部を上にした状態で〔図-9-A〕  
 ⑥フレームチャンネル先端横の角穴に⑮フレームキャップのツメを引っ掛けます。〔図-9-B〕



## 取付け方法

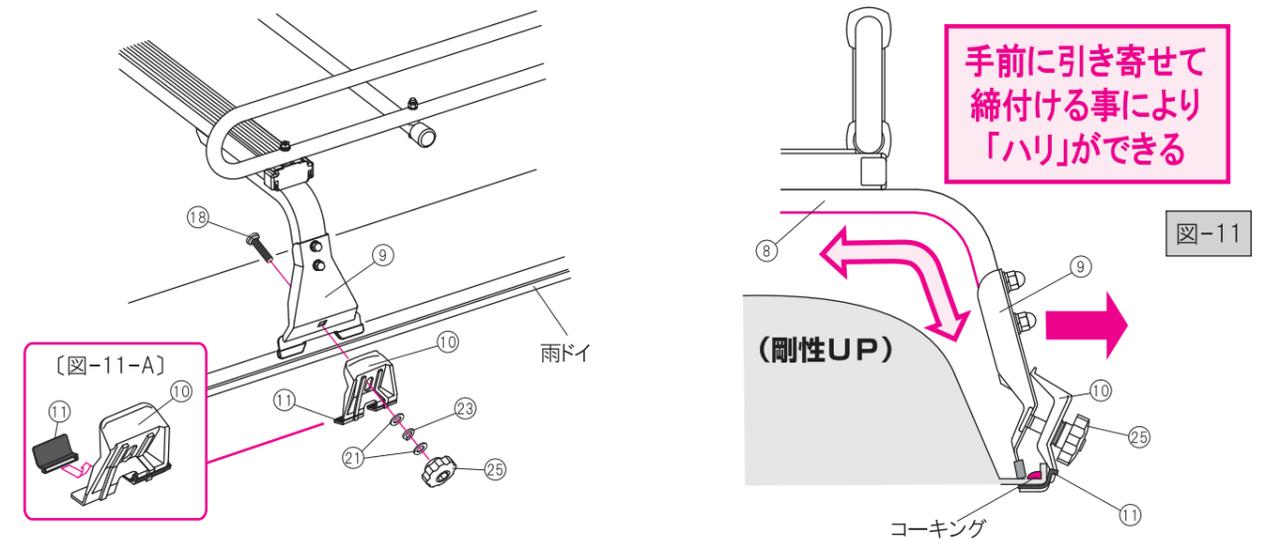
△注意 キャリアを車両に取付けの際は必ず2人以上で安全な場所で行ってください。ルーフの傷や凹み、キャリアの破損防止になります。

1. キャリアをルーフの雨ドイにゆっくり載せ、キャリアの幅の調整を行います。本体枠と⑧脚ステーの左右の間隔が均等になるように調整を行ってください。〔図-10〕 この時、⑨インナークランプを雨ドイのルーフ側に寄せた状態しておきます。〔図-10-A〕  
 調整後、「組立て方法①/2」で仮締め状態の⑯キャップボルトセットM6をしっかりと締付けます。〔図-10-B〕



2. ⑩アウタークランプのツメに⑪アウターパッキンの穴を通し向きに注意して組付けます。〔図-11-A〕  
 ⑨インナークランプの下端がルーフ側にある事を再確認し、〔図-10-A〕 ⑨インナークランプの角穴の裏から⑱角根ボルトM8を通し⑩アウタークランプを雨ドイにかませ ㉑平座金M8、㉒バネ座金M8、㉑平座金M8、㉑締付ノブの順でしっかりと締付けます。締付けの際は⑨インナークランプを手前に引き寄せながら締付けを行い、6か所均等に締付けを行ってください。〔図-11〕  
 ※手前に引き寄せることにより、⑧脚ステーに「ハリ」ができキャリアの剛性が増します。

△注意 雨ドイの曲げ内側にコーキングがあり、大きく手前に引き寄せる事が出来ない場合もありますが、可能な限り、手前に引き寄せて締付を行ってください。

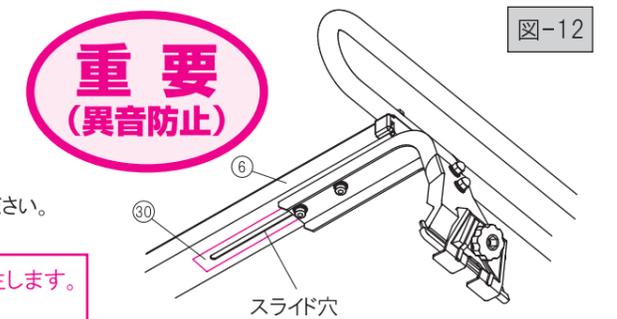


3. キャリア取付け後、⑥フレームチャンネルのスライド穴を㉑塩ビテープで塞ぎます。〔図-12〕  
 取付ける車両により、スライド穴が「内」「外」に2分割される場合があります。その場合には㉑塩ビテープを必要な長さにカットして分割されたスライド穴を確実に塞いでください。

△注意 必ずスライド穴を塞いでください。  
 この作業を怠ると走行中に笛を吹いたような異音が発生し、また雨天や洗車時には水が侵入するためサビ発生の原因になります。

4. 最後にキャリアを前後左右に揺すり、ガタツキが無いことを確認してください。ガタツキがある場合は再度取付けをやり直してください。

△警告 キャリアを取付けた初期段階では初期ユルミは必ず発生します。定期的に締付部の増締めを習慣に行ってください。



# ZM-321M・422M補足取説

## [取付け方法.2]の前にご一読願います。

車種により雨ドイの角度が異なり、⑩アウターランプのツメの角度(雨ドイ合せ部)が若干合わない場合があります。その際は次の要領で、⑩アウターランプのツメの角度の調整を行ってください。

「取扱い説明書/取付け方法.2」で⑩アウターランプを雨ドイにかませた際、雨ドイの角(カド)に⑩アウターランプ下端(A部)とツメの先端[図-1-A]が密着していればそのまま使用できます。**A** [図-1]

合せが部が極端に**B**や**C** 図[図-2]のような状態の場合はドア(スライドドアも含む)の開閉時に⑩アウターランプが干渉するため、⑩アウターランプのツメの角度を「モンキーレンチ」又は「ペンチ」等で挟んで角度の調整を行ってください。[図-1]

※**[B** の場合]は、5度ぐらい 広げて、ください。

※**[C** の場合]は、5度ぐらい 狭めて、ください。

角度調整する際は、⑪アウターパッキンを一度外してから行ってください。

